

ノボケア Smile

笑顔を支えるインスリン療法

2007
春
No.13



監修

岩本安彦
(東京女子医科大学糖尿病センター センター長)

編集協力

岩崎直子 内瀧安子 尾形真規子 北野滋彦 佐倉宏
佐藤麻子 佐中眞由実 新城孝道 中神朋子 馬場園哲也
(東京女子医科大学糖尿病センター) アイウエオ順

ノボケア Smile

笑顔を支えるインスリン療法

No.13 Spring 2007

2007年4月発行/第1版第1刷発行 非売品

[発行]

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
www.novonordisk.co.jp

[企画・制作]

電通サドラー・アンド・ヘネシー株式会社

〒104-8427 東京都中央区築地1-12-6 築地えとビル



レッツ・フォーカス

小児糖尿病

<2型糖尿病>

ズームアップ インスリン インスリン製剤の歴史



小児糖尿病

<2型糖尿病>



2型糖尿病は、おとなだけに発症する病気ではなく、こどもにも発症する病気です。こどもの2型糖尿病の特徴と、発見された場合に治療がどのようになされていくのかを、東京女子医科大学糖尿病センターの内潟先生にうかがいます。

日本のこどもの2型糖尿病

10代のこどもにも2型糖尿病が存在することは、1990年、世界にさきがけ東京女子医科大学糖尿病センターヤンググループが報告しました。しかし、1型糖尿病を間違っ
て診断しているのではないかと、東洋人の糖尿病はどうも白人の糖尿病とは違うのではないかと、などとなかなか信じてもらえませんでした。

最近ではアメリカ糖尿病学会でも、学会長は会員に向かってこどもの糖尿病にもっと注目すべきであると毎年言及するようになりました。アメリカでも先住民やヒスパニックの人たちのこどもの2型糖尿病が問題となってきたからです。

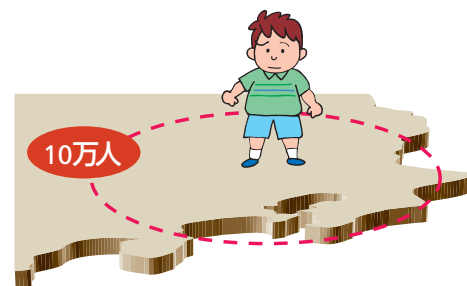
日本では1974年から東京の一部で、こどもの腎臓病を早期に発見しようと、学校に持

参した早朝尿にタンパクが出るかどうかをチェックする学校検尿が始まっていました。尿糖も一緒にチェックしようということになり、1992年からは全国の小中学校で、この2つの尿検査を行うことが義務化されました。

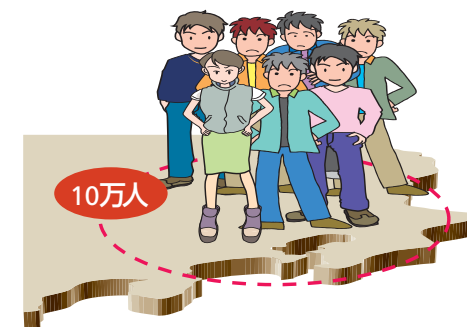
おとなの2型糖尿病（一般に糖尿病と呼ばれるのはこの2型糖尿病のことです）と同じく、こどもの2型糖尿病も学校検尿システムがある現在では、尿糖陽性の段階、つまり糖尿病症状などがまったくないときに発見されます。まったく自覚症状がないのに尿糖陽性だけで発見されます。もちろん尿糖陽性だけでは診断できませんので、さらにくわしい検査をして2型糖尿病かどうかを診断することになります。

最近、東京近辺の学校検尿で発見された児童数が報告されましたが、1年間に小学生

小学生



中学生



10万人に1人、中学生10万人に5~7人くらいです。ちなみに日本人15歳未満の1型糖尿病発症率は10万人に2~2.5人くらいです。

こどもの2型糖尿病の特徴

学校検尿で発見される時は無症状であることがもちろん多いですが、たまたま風邪や喘息など他の病気と一緒に糖尿病症状(口渇、体重減少など)が出現して発見されることもあります。

肥満

糖尿病



こども時代に発見された糖尿病センターの2型糖尿病患者さんが過去に肥満していたかどうかをしらべてみたところ、年代が中学生から高校生時代に発見される人たちほど肥満している、また、昔のこどもより最近のこどもの方が肥満して2型糖尿病を発症してくることがわかりました。肥満していなくても2型糖尿病を発症しますが、肥満児であると2型糖尿病になりやすいのです。これは昨今のジャンクフードの摂取や脂肪摂取の過多など食習慣の欧米化と大いに関係するでしょう。

こどもの2型糖尿病はどのように治療していくのでしょうか？

おとなの2型糖尿病と同じく、どんなものを食べるか、身体をしっかり動かしているか、この2つがもっとも大事なポイントで、治療の基本となります。

食事の摂り方をちょっと勉強して、ポイントがわかれば、それだけでとてもうまく血糖コントロールできるお子さんが多いです。食事のカロリーというよりも、ジュースやコーラを多飲することが多かったり、朝食の欠食、夕食が夜遅くなってだらだら食べているなどのことが悪影響を与えています。このような

生活を直すだけで、血糖コントロールがうまくいきます。

もちろん、食事・運動だけで不十分なときは薬物治療になります。不十分な血糖コントロールのままにしておくと、身体の成長が滞ってしまいます。また、将来糖尿病性合併症が発症してきます。10代で2型糖尿病であったお子さんが30代になって重症の合併症で入院するといったことも少なくありません。



よって、身長が増加がにぶってきた(不良な血糖コントロールによる)ときは、早めに血糖降下薬やインスリン注射治療を開始します。

食欲旺盛で血糖コントロールが一番むずかしい思春期を、とにもかくにも良好な血糖コントロールで通過してもらうことが、患者さんはもちろんのこと、医療者の願いでもあります。



内潟 安子
(うちがた やすこ)

東京女子医科大学糖尿病センター 教授

昭和56年金沢大学医学部大学院卒業後、富山医科薬科大学医学部第1生化学教室、昭和58年から米国国立衛生研究所(NIH)、昭和62年から東京女子医科大学糖尿病センター助手、平成4年から同センター講師、平成8年から同センター助教授、平成16年から同センター教授として現在に至る。小児ヤング外来のチーフ。

治療の成功で築き上げた絆、 これからもっと深めていきたい。

- ◆お蔭様でHbA1c値が6.2%になりました。
- よく自己管理しましたね。最初に会ったときはHbA1c値が2桁で心配しました。ご自分に自信がなく不安そうでしたね。
- ◆あの頃はインスリンを打っても、思ったようにHbA1c値は下がらないし、低血糖はよく起こすし。散々な日々でした。
- 入院してご自身に合うインスリンと量に変更できたのがよかったのでしょうか。
- ◆ええ。治療のための入院をきっかけに自己管理やその継続の大切さ、重大さがよくわかりました。今は低血糖もほとんど起こしません。以前は会社で倒れたり、救急車で運ばれたりして、会社の方にも家族にもずいぶん心配をかけました。
- 今は2種類のインスリンを1日4回でコントロール中。ひとり暮らしなのに自炊も外食の選択も上手だし、とてもよいですね。
- ◆19歳で発病した頃には、インスリン注射も大変だったけど。今では注射はペン型や使い捨てなどとても簡単になりましたね。それに血糖自己測定も、以前に比べるとすごく早く結果がわかるので、昼前の低血糖チェックや食後2時間の血糖値もしっかり計って自己管理しています。

- よい自己管理ができていますね。新製剤の開発で、いろいろな種類ができたこともよかったですね。岩上さんの生活スタイルに

糖尿病があっても、
勇気と自信を持って、
普通の人と同じように生活していきましょ



村上雅子先生
静岡赤十字病院 第3内科部長

医学博士。日本内科学会認定医・指導医、日本糖尿病学会認定専門医、日本内分泌学会専門医・指導医。2005年には浜松医科大学内科臨床助教授。英国、ドイツ等への留学を経て内分泌、代謝疾患、糖尿病など生活習慣病を含む診療と治療に注力している。インスリンや経口剤による治療のみならず、患者さんが自己管理を継続できるように支援するための患者教育、指導にも努力している。糖尿病教室で病気の解説、講義も毎週欠かしたことがない。病気や治療に対するきりりとした姿勢と同時に、華やかな笑顔が印象的。



岩上泰輔さん

会社員。19歳で急激な体重減少と頻尿・多飲をきっかけに病院を訪問。1型糖尿病と診断された。大変なショックを受ける。入院加療で一次体調は回復するが、長続きせず、入退院を繰り返す。就職後、1日4回の強化インスリン療法にも関わらず、血糖コントロールは不良で低血糖を繰り返していた。そんなとき村上先生を受診しインスリン製剤の新たな選択と変更を含む治療を受ける。症状の改善に伴い、元来の努力家の芽が動きだし、1型糖尿病について、病気や治療について糖尿病教室で講義を受ける。これがより一層、自己管理に拍車をかけている。今はやってみたく山ほどある。今回の取材を機に、自身の病気体験を生かした活動をしていきたいとの新しい夢、目標がひとつ増えた。

合うものを選んで、組み合わせ使っているのよね。

- ◆インスリンや注入器の発展は身をもって体験したかな(笑)。どんどん便利になる！そのせいか、病気のことや薬のこと、技術や医療の進歩にとっても興味があって、本やインターネットで情報収集しています。
- 本当に気負わずに自己管理を見事にできる方です。初診の頃は病気のために仕事を任せ

糖尿病があるからこそできることを、
これからの人生の課題にしていきたい。

てもらえないのではないか、自立した生活ができないのではと、お母様が常に大変心配していらっしゃいました。でも、今ではちゃんと仕事をして、独り暮らしもして。自己管理ができたからですね。ご自身に自信がついてきたのが明らかに見られ、明るくなりましたね。

- ◆先生をはじめ、家族や会社の方にも心配をかけたけど、自己管理ができるようになったのをきっかけに、いろいろなことに自信が持てるようになりました。それにいろいろ興味も広がっています。それからもこれから実行していきたいですね。
- 糖尿病があっても、いろいろなインスリンをうまく使いこなして、岩上さんのように上手に自己管理ができれば健康な人と同じように生活ができるので、今後も自信を持って暮らしてください。そして合併症を来たさないように、もっともっと人生の可能性を拡げて欲しいですね。
- ◆はい。先生これからもマイ・ドクターとして、見守っててください。
- こちらこそ。こんなにすばらしい患者さんの存在をひとりでも多くの読者の方に知って頂くことにより、悩んでいる患者さんの勇気と希望につながってゆけば幸せと考えています。